



毎日練習で18\*漕ぐ溝口さん

輝いています

全国高等学校選抜ボート大会 優勝

# ひと

みぞぐちじょはな  
溝口女華さん

## 一糸乱れぬ動きで連覇を目指す

### 水

上で純粋に速さを競う、究極の団体スポーツともいわれるボート競技。「全員の動きが一つになり、個々の力以上のものが発揮されるような感覚を味わえるのが楽しいです」と話すのは、県立南陵高等学校2年の溝口女華さん（16歳・南町3丁目）です。同校ボート部の一員として、今年3月、全国高等学校選抜ボート大会のクオドルプル（漕手4人と舵手1人で競う種目）で、みごと優勝しました。

基礎体力や筋力は、腕や足、背中など全身を使うオールさばきに発揮され、1年生からの活躍につながっています。静岡県浜松市で開かれた全国選抜大会では、地方ブロックを勝ち上がった24クルーが参加。予選、準決勝を1位で通過し、決勝でも全員の動きや意識、呼吸がそろい、2000mを7分51秒02と、2位に6秒以上引き離す記録で同校に初の栄冠をもたらしました。この結果を受けて、溝口さんは今月15日から始まる国民体育大会関東ブロック大会に県代表の1人として出場します。

5月に行われた大会では、1人乗りボートの競技に初挑戦。社会人や大学生と高いレベルで競うなかでスタートやバランス感覚を養うなど着実に経験を重ねています。常に高い目標を持ち、努力を続ける姿に顧問の松尾亜里沙先生も「来年は主力として、他の部員を引っ張る存在になってほしい」と、期待を寄せます。

「一番の目標は全国選抜大会の連覇。そのためにも国体の経験を生かし、みんなで勝利をつかみたい」と語る溝口さん。今日も仲間たちとオールを握り、きらめく水面を滑るように駆け抜けていきます。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蔵にあり



かわなべ きょうさい  
河鍋 暁斎  
天保2年(1831)  
～明治22年(1889)

現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

暁斎は、幕末の文久3年（1863）に版元の恵比須屋とともに両国橋西詰へ象を見に行き、写生をしています。その写生を基に、象を戯画化して出版したのが「象の戯遊」シリーズです。

この版画（左作品）では、象が盾から鼻を突き出して西洋風の人物を驚かせたり、中国風の人物と曲芸をしたりする様子が描かれています。なお、中央の象の持つ扇子には、暁斎の号の「慳」と「狂」の字が隠し落款のように記されています。



暁斎筆  
「天竺渡来大評判象の戯遊  
盾を貫くほか」

### 河鍋暁斎記念美術館

「猫・犬・猿・虎 一暁斎の描いた動物たち」展  
同時開催「第30回かえる展」  
期間＝7月1日(金)～8月24日(水)

開館＝午前10時～午後4時 休館＝木曜日  
毎月26日～末日 ところ＝南町4-36-4  
入館料＝一般540円 中学生～大学生430円  
小学生以下210円 詳細＝同館(☎441-9780)  
(20人以上の団体は要予約)



QRコード  
展覧会の詳しい  
内容は美術館の  
ホームページを  
ご参照ください